



# PRESENT



## 使う「引き出し」は、自分で選ぶ



こんにちは! 数学科の吉高です。運動会の練習が本格的に始まりましたね。

運動会のプログラムの中でも全校生徒の演技「ソーラン節」は今年も楽しみです。練習はすでに始まっており、みんなの表情から、本気の気持ちが伝わってきます。かっこいい動きが楽しい人もいれば、「覚えられない」「リズムが難しい」と感じている人もいるかもしれません。

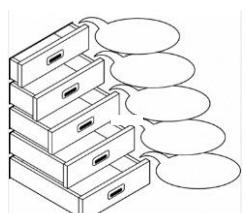
ソーラン節は、全体の流れの中で、一つひとつの動きがつながっていきますよね。練習を見ていると、最初は先生に動きを教えてもらって真似ますが、覚えて踊るとなると「次はさっきと同じパターンか? 特別な動きが入るところか?」「ここは切り替わる場面か?」など、その時その時で\*\*“どの動きを使うか”をみんな自分で考えて動いています。

実はこの力、普段の生活や学習にも同じように必要なんです。

わからない問題にぶつかったとき、「どの解き方(=引き出し)を使えばいいか?」を考えること。すぐに答えを聞くのではなく、まず自分の中にある知識をどう使うかを判断してみる。

これを、心理学では「メタ認知」と呼びます。

一流の学習者ほど、この“引き出しを選ぶ力”が高いと言われています。



ベンジャミン・フランクリン(アメリカの政治家であり発明家)はこう言いました。

「言われたことは忘れる。教えられたことは覚える。

でも、自分で関わったことは身につく。」

みんなが今やっているソーラン節の練習は、まさに“自分で考えて動く”ことそのものです。

自分で考え、選び、挑戦する。その力は、ソーラン節だけでなく、これから学習にも、将来にもつながっていくと私思います。位置が決まればよいよ全体練習。考えなくても身体が動くようになり、みんなの熱い気持ちが乗っていくでしょう。本気が伝わる最高の演技をつくり上げてください。

「自分で引き出しを選ぶ力。それを考えなくともできるように身につける力」この機会にしっかり育ていきましょう。最後まで読んでくれてありがとう。